

# 三菱自動車からのお知らせ

平成25年度(2013年度)上半期のご報告  
2013年4月1日~2013年9月30日

ルート  
**Route**



Drive@earth

## 社長インタビュー

MITSUBISHI MOTORS  
PRESIDENTOSAMU  
MASUKO

## 中期経営計画「ジャンプ2013」

完遂により復配を実現させ、  
新たなステージでさらなる  
成長を目指します。



## → Question 1

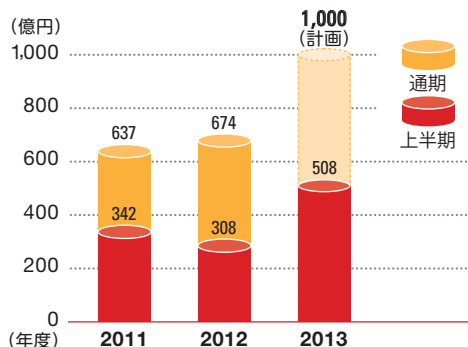
## 2013年度上半期の業績についてどのように評価していますか。

上半期の自動車業界を取り巻く事業環境は、超円高が是正されましたが、ユーロ圏での景気低迷や新興国経済の変調など、依然として不安定な状況にあったといえます。そのような厳しい環境の中で、当社グループは新車投入などにより小売・卸売ともに販売台数を伸ばし、前年同期比で増収・増益を達成することができました。特に日本で、本年6月より販売を開始した新型『eKワゴン』『eKカスタム』が非常に好調な滑り出しを見せたほか、アジア・その他地域においては、タイ政府によるファーストカーバイヤープログラム終了などの影響で減少した販売台数を、それ以外の地域で補うことができました。また、広告宣伝費などの販売費の増加や車種構成等の悪化はありましたが、為替の好転に加え、資材費等のコ

スト低減が増益に寄与しました。

為替の追い風もあったとはいえ、たゆまぬコスト削減努力が着実に成果となって業績に表れていると手ごたえを感じております。

## 営業利益推移



→ Question 2

## 下半期の取り組みについて教えてください。

通期業績見通しについても台数増加やコスト低減の積み上げにより前年比増収・増益を目指します。計画達成に向け、事業戦略の中核である新興市場での展開に引き続き注力していきます。昨年急成長したタイは、今年は反動減により一時的な調整局面にあると考えていますが、中長期的には成長していく魅力的な市場であり、将来に備えた準備は怠らず取り組んでまいります。また、そのほ



マレーシアで生産・販売開始が間近な「ASX」

かの市場でも、上半期にはロシア・中国で中型SUV『パジェロスポーツ』、ブラジルでコンパクトSUV『ASX』の現地生産開始に続き、マレーシアでも『ASX』の生産・販売開始に向け準備を進めています。これら重要市場での商品力強化や販売拡大を目指すとともに、当社ブランドの確立・認知向上を図っていきます。

→ Question 3

## 成熟市場での取り組みはいかがですか。

まず日本では、日産自動車との合併会社NMKVが企画・開発した新型軽自動車の第2弾スーパーハイトワゴン『eKスペース』を来年初頭に投入し、販売の底上げを図ります。また水島製作所での車体組立ラインの集約や、名古屋製作所での車体組立ラインの新世代化(メインラインのスリム化やセットパーツサプライ方式の導入など)を行うなど、国内での生産体制の再構築を通じて、さらなる効率化やコスト競争力の強化を図ります。

北米市場では現地生産している『アウトラン

ダースポーツ』に加え、新型『アウトランダー』や『ミラージュ』を投入し、モデルラインナップを強化しました。欧州では待望の『アウトランダーPHEV』を発売しており、人気の高いオランダを中心に、販売の拡大が期待できません。成熟市場においても、販売台数のさらなる拡大に取り組んでまいります。



北米向け「ミラージュ」

## → Question 4

### カスタマーファースト・プログラム(CFP)で新たに品質改革宣言を 発表しましたが？

当社は今年4月より「お客様の安全・安心」を第一に考える“顧客視点”を全社に再徹底するため、品質に関わる業務プロセスを全面的に見直す品質改革推進活動“CFP”を実施しています。クルマにとって品質は、お客様に安心して快適にお乗りいただく上で、求められる最も大切な性能であります。そこで、当社がこの活動に不退転の決意で取り組んでいることを明確にすべきと考え、10月に「品質改革宣言」を発表しました。7月に公表した「クオリティー・ターゲット」の達成を含め、ここで宣言したことを新中期経営計画の重点項目の一つと位置付けることで確実に実行してまいります。そして、クルマに関わるすべての品質において業界トップレベルを目指します。

## → Question 5

### アウトランダーPHEVの 生産を再開しました。

『アウトランダーPHEV』については、今年3月のバッテリー不具合により、多数のお客様にご迷惑をおかけしました。当社では、お客様に安心感を高めていただくには、迅速な対処と正確な情報の提供が不可欠であるという認識の下、不具合発生後、速やかに公表、その後も適宜状況報告を行い

ました。さらに、通常は販売会社で行うリコール作業を同車の生産工場である岡崎工場の生産ラインで集中的に実施したほか、その様子をマスメディアにも公開したことで、安全・確実に作業が実施されていることを広く知っていただけたのではないかと考えています。今年8月から生産を再開し、国内外からの多くのご注文に応えるべく、生産能力を増強して取り組んでおります。



オランダの港に到着した「アウトランダーPHEV」

## → Question 6

### 新中期経営計画 「ニューステージ2016」が 発表されました。 その計画のポイント、そこに込めた 思いをお聞かせください。

まず、現中期経営計画「ジャンプ2013」では、2008年のリーマンショックを契機に大きく変化した世界の自動車需要構造に素早く対応しました。タイでの新工場立ち上げや中国、ロシアでの合弁会社での生産本格化、世界戦略車『ミラージュ』『アウトランダー』『アウトランダーPHEV』の投入、さらには、オランダ工場の売却や、日産自動車

との協業を通じた国内での軽自動車投入など、新興市場と環境対応に経営資源を重点配分するとともに、コスト構造の抜本的改革を進めてきました。

今後を展望しますと、当社を取り巻く環境は、新興市場の中長期的成長、ピックアップ・SUV・クロスオーバーセグメントでの持続的な伸張が見込まれ、環境や安全対策技術への需要拡大も大きなオポチュニティであると考えております。そこで新中期経営計画「ニューステージ2016」では、当社が最も得意とするピックアップトラック・SUVの新型車を投入し、三菱らしい商品の技術開発強化、アセアン地域など新興国への経営資源投下など、引き続き選択と集中の徹底を図ってまいります。

この「ニューステージ2016」では、三菱自動車が経営再建中の企業から新たな成長ステージへ進んだ企業として、これからの3年間でどのような成長を遂げていくのかを明確に示しました。そして、この計画を通じてお客様や社会の期待に応

え、その期待以上の価値を提供する会社に成長するため、改革を継続してまいります。

併せて、残っている優先株式をすべて処理し、普通株式への復配を実現させるため「三菱自動車 資本再構築プラン」も発表しました。これにより、様々なステークホルダーからご支援をいただきながら進めてきた再生に一つの区切りをつけ、安定した経営基盤の確立を目指します。



新中期経営計画を発表する益子社長

→ Question 7

## 最後に、株主の皆様一言、お願いします。

当年度の中間配当は見送らせていただきますが、年間配当の実現を目指します。その上で、来期以降は新中期経営計画の確実な実行により安定的な配当を継続できるよう取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年12月  
取締役社長

益子 修

三菱自動車企業理念

大切なお客様と社会のために、走る喜びと確かな安心を、  
こだわりをもって、提供し続けます。

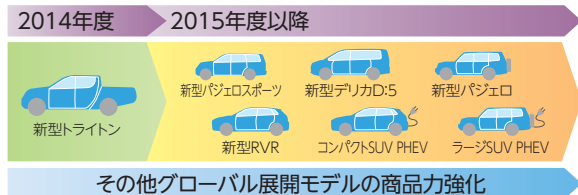
# 新中期経営計画「ニューステージ2016」～新たな

三菱自動車は、11月6日、2014年度から2016年度までの3年間を対象とする新たな中期経営計画「ニューステージ2016」を発表しました。

当社が強みとするピックアップトラック・SUV・クロスオーバー系車種を戦略商品として活かしながら、世界的に高まりを見せる環境対応技術や安全対策技術等に対するニーズに応え、アジア市場における中長期的な成長力を確実に自社に取り込んで、現中期経営計画「ジャンプ2013」を通じて強化してきた経営基盤をベースに、さらなる成長を目指します。

## ➤ 戦略商品投入による売上高の増大

基幹車種であるトライトン・パジェロスポーツの新型車をはじめ、新型RVRやPHEV搭載車などを相次ぎ投入します。当社が最も得意とするこれらの商品を、最も競争力の強い地域へ投入し、売上高の増大につなげます。

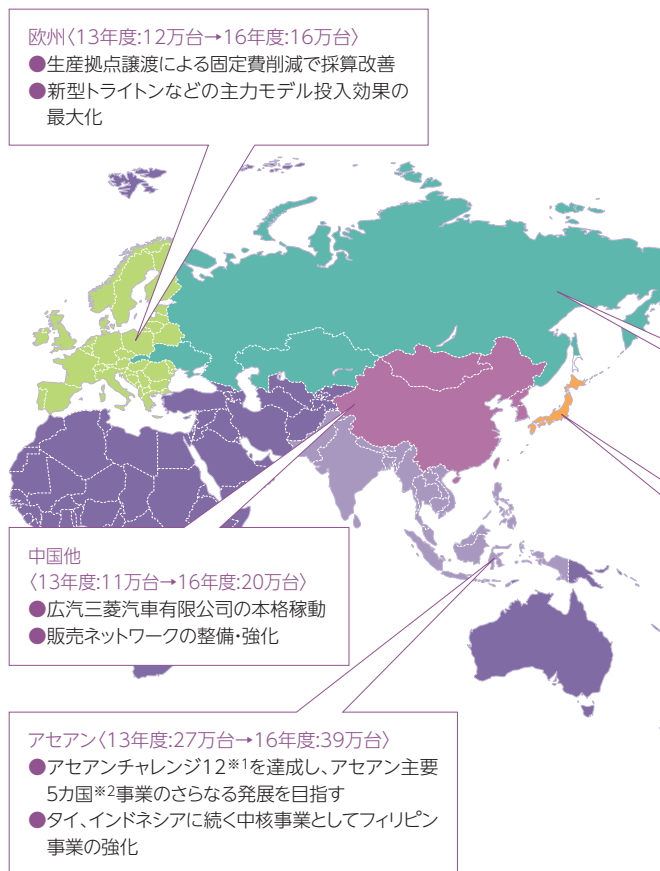


## ➤ 次世代技術開発の推進

戦略商品の投入に加え、環境への貢献・走る喜び・確かな安心を追求する次世代先進テクノロジー「@earth TECHNOLOGY」の開発に注力します。

EV及びPHEVをさらに進化させ、電動化技術のリーディングカンパニーを目指します。さらに、走行性能と環境性能を両立する次世代エンジンの開発を進めるとともに、当社の得意とする四輪駆動の統合制御や既に『アウトランダー』に装備している安全技術「e-Assist」を進化させ、情報システムを活用したコネクティッドカー技術も積極的に採用します。

## 地域戦略



※1 2015年度のアセアン主要5カ国 36万台

※2 タイ・インドネシア・フィリピン・マレーシア・ベトナム

# 成長ステージへ～

## ➤ 地域戦略の深掘り

これまでの新興市場に向けた成長施策による成果を確実に取り込み、成熟国ではさらなる収益性の改善を加速させます。

北米<13年度:11万台→16年度:15万台>

- 新車種投入を通じた販売網の活性化
- 米国工場からの「アウトランダースポーツ」の輸出による稼働率向上

ロシア他<13年度:9万台→16年度:11万台>

- 戦略モデルであるSUV・ピックアップトラックを中心に拡販
- 現地生産拡充を通じたコスト低減

日本<13年度:15万台→16年度:15万台>

- NMKVを通じた軽自動車事業の発展
- 車種数の絞込みと車種あたり販売台数の拡大

[業績目標]	13年度 (10/29公表値)	16年度(目標)
小売台数	1,111千台	1,430千台
卸売台数	1,306千台	1,610千台
売上高	21,300億円	26,000億円
営業利益	1,000億円	1,350億円

※卸売台数はOEM・共同開発車を含む

## ➤ 事業構造の改革

引き続き成長が見込める新興市場での生産拡大や成熟国での生産能力の適正化、国内工場では効率化・新世代化を進めることでグローバルでの生産能力の最適バランスの実現に取り組みます。

また、カーラインの整理・統合を進めることで車種・プラットフォームあたりの販売台数を向上させます。コスト低減は社長直轄の委員会によるモニタリングなどの各種施策を緩めることなく取り組み、2013年度対比で2016年度目標1,100億円の低減を目指します。

## ➤ 安定した経営基盤の確保

これら施策を実行するため、さらなる新興市場での体制強化や、商品力を高めるための先行研究、環境対応などの先端技術開発を推進すべく、積極的な設備投資実施、研究開発費投入を計画しています。また、日産自動車との企画・開発合弁会社であるNMKVを通じた軽自動車事業のように、今後も積極的に協業を通じた経営リソースの有効活用を図っていきます。

## ➤ 品質改革への取り組み

2013年10月24日にお約束した「品質改革宣言」のとおり、お客様の期待にお応えし続けるために、クルマに関わるすべての品質において、業界トップレベルを目指します。

# Capital Restructuring Plan

## 三菱自動車 資本再構築プラン

新中期経営計画「ニューステージ2016」の発表と同時に「三菱自動車 資本再構築プラン」を発表しました。

今回公表したプランに沿って具体策を実行し、継続的な株主還元と持続的成長を支える経営基盤の確立を目指します。



プランを公表する市川副社長

### ◆基本的考え方

優先株式の  
全量処理

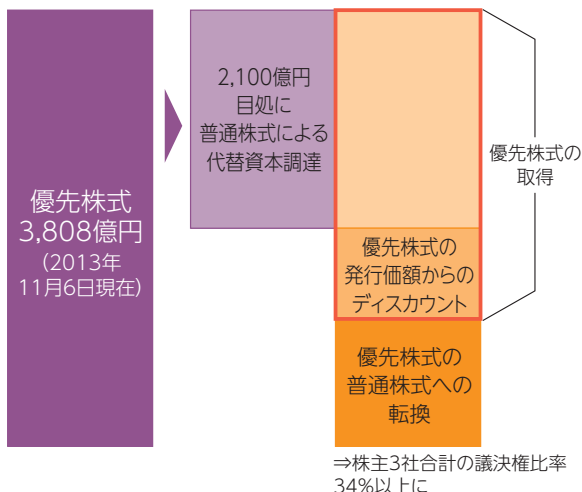
希薄化の  
不確実性払拭

株主3社※の  
サポート継続

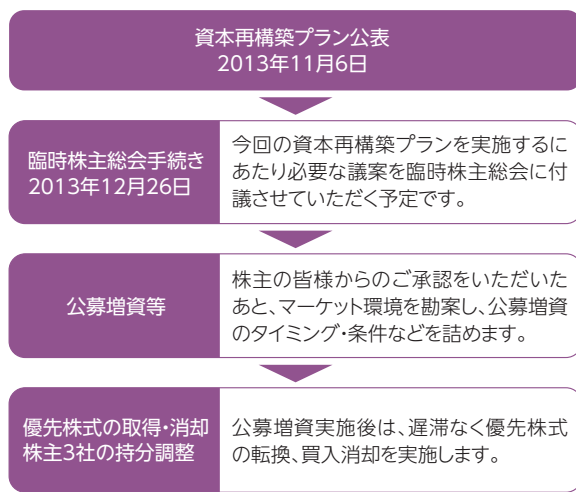
株主還元策の  
実施

※株主3社は、三菱重工業、三菱商事、三菱東京UFJ銀行を指す

### ◆優先株処理のイメージ



### ◆今後の日程



→Q1 公募増資は、いつ、どのような条件で行われるのですか。

→A1 公募増資については、その発行時期、発行条件、発行総額等は現時点では未定であり、今後、諸般の状況等を勘案し決定した段階で、改めて開示いたします。

→Q2 復配は、いつ行われるのですか。また、どの程度の配当を予定しているのですか。

→A2 2014年6月の定時株主総会で復配を決議できるよう取組みますが、配当水準その他具体的な内容は、資本再構築プランの遂行状況や業績・投資計画等を勘案し今後決定いたします。



## → すべては、たのもしい走りのために。@earth TECHNOLOGY

今年11月20日\*1から12月1日まで東京ビッグサイトで開催された『第43回東京モーターショー2013』において、当社のクルマづくりの考え方、方向性を具現化し、当社の強みを最大限に発揮できるSUV2台とMPV1台のコンセプトカーを世界で初めて披露しました。

「『地球を走る。地球と生きる。』をテーマに、地球環境に配慮しながら、地球上のさまざまな地域のお客様に走る喜びと確かな安心を提供する」という想いの下、「環境への貢献」「走る喜び」「確かな安心」を追求した次世代先進技術「@earth TECHNOLOGY」がこれら3台に採用されています。また、デザイン面においても歴代『パジェロ』で培ってきたSUVとしての機能性と安心感を表現する手

法をより洗練させ、これらコンセプトカーに反映させました。

\*1一般公開は11月23日から



世界初披露された3台のコンセプトカー

## New Car

## → 新型軽自動車スーパーハイトワゴン『eKスペース』まもなく誕生!

2014年初頭に発売を予定しているスーパーハイトワゴンタイプの新型軽自動車の車名を『eKスペース』に決定し、第43回東京モーターショーに参考出品しました。

“楽・空・感”をコンセプトに、「従来の軽自動車を超える上質感」は第1弾の『eKワゴン』『eKカスタム』そのままに、スーパーハイトワゴンとして高くて広い快適な居住空間を実現した『eKスペース』は、日産自動車との合弁会

社、株式会社NMKVが企画・開発した第2弾モデルです。



『eKスペース』



『eKスペース』カスタム

## ▶ 株主様向け工場見学会のお知らせ

下記のとおり株主様向け工場見学会を岡山県倉敷市の水島製作所で開催いたします。皆様のご応募をお待ちしております。

### 見学会概要

**見学会場所:** 水島製作所(岡山県倉敷市)  
同製作所では、新型「eKワゴン」「eKカスタム」「eKスペース」、世界初の量産電気自動車「i-MiEV」、高性能4WDスポーツセダン「ランサーエボリューションX」などを生産しております。

**集合・解散:** JR倉敷駅 改札口(バスにて工場まで送迎)  
お車での工場への直接のご来場はご遠慮ください。

### 開催日程:

開催日	集合	見学会	解散(予定)
①2014年3月14日(金)	9:30	10:00~12:30	13:00
②2014年3月14日(金)	14:00	14:30~17:00	17:30
③2014年3月18日(火)	9:30	10:00~12:30	13:00
④2014年3月18日(火)	14:00	14:30~17:00	17:30



**内容:** 概要説明の後、徒歩にて構内を約1時間見学いただく予定です。  
**対象者:** 2013年9月末時点 当社株主の方+同伴者1名様まで可(小学生以上)  
**募集人数:** 各回50名様(含:同伴者)  
**参加費:** 無料(集合・解散場所までの往復交通費や宿泊費等は各自のご負担とさせていただきます。)

### 応募要領

**応募方法:** 下記のとおり郵便はがきに必要な事項をご記入のうえ、ご応募ください。なお、同一株主様の複数応募は無効といたしますのでご注意ください。

**応募締切日:** **2014年1月6日(月)必着**  
**当選発表:** 厳正な抽選のうえ、当選発表につきましては当選者へのご連絡(2月中旬頃予定)をもって代えさせていただきます。  
その際、当日の運営等詳細をあわせてご連絡いたします。

※ご応募により当社が取得する個人情報、本見学会を実施するうえで必要な限りにおいてのみ使用いたします。

郵便はがき

50円  
切手

1088410

三菱自動車工業(株)  
総務部  
工場見学会係行

東京都港区芝5丁目33番8号

- 1.希望参加日時(上記開催日時のうち、**いずれか1つ**をお選びください。)
- 2.郵便番号
- 3.住所
- 4.自宅電話番号
- 5.当日ご連絡可能な連絡先(携帯電話番号)
- 6.氏名(ふりがなをご記入ください)
- 7.年齢
- 8.同伴者がいらっしゃる場合は、同伴者の住所、氏名、年齢をお願いします。

お問合せ先

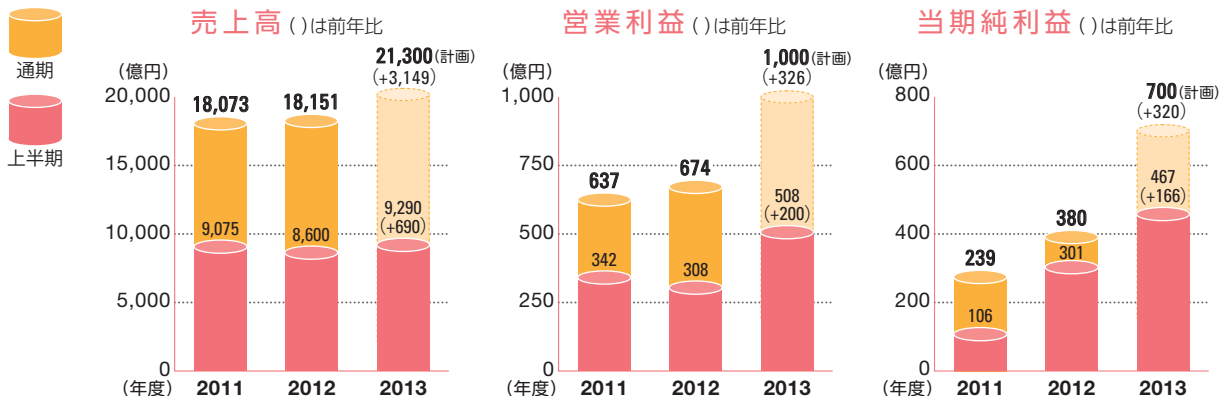
三菱UFJ信託銀行株式会社内 三菱自動車 工場見学会係  
電話番号: **0120-313-282** 9:00~17:00(土・日、祝祭日を除く)  
年末年始休業日:12月31日(火)~1月5日(日)

# 事業概況：2013年度（上半期）の決算の概要

## ▶ 販売台数を伸ばし、増収増益を達成

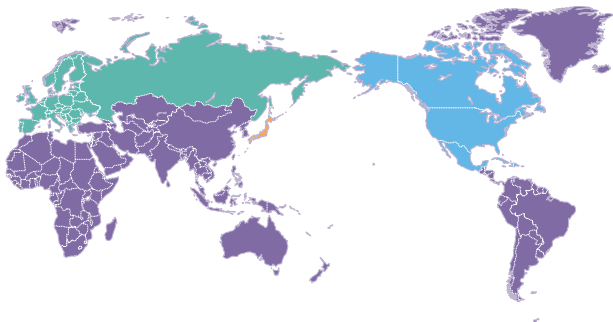
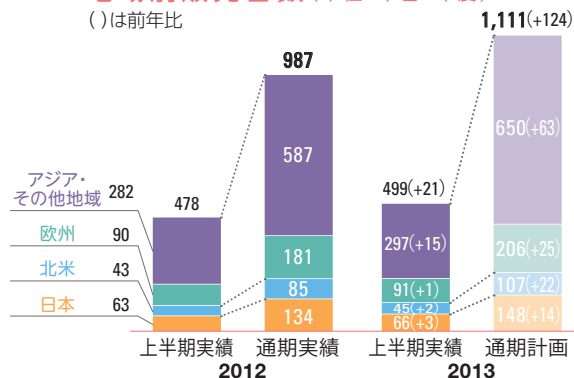
当上半期の売上高は9,290億円と、前年同期比（以下同様）で690億円、8%の増収となりました。営業利益は、販売費の増加や車種構成の悪化はあったものの、為替の好転や資材費等コスト低減により508億円となり200億円、65%の増益となりました。当期純利益は467億円となり、166億円の増益となりました。

地域別の販売台数実績は、新型『eKワゴン』『eKカスタム』が好調な日本で3千台、5%の増加となったほか、北米で2千台、3%、欧州で1千台、1%と増加しました。アジア・その他地域では、タイを除く地域で大きく前年同期を上回り15千台、6%の増加となりました。下半期も台数増や資材費等コスト低減の積み上げにより増収・増益を目指します。



## 地域別販売台数 (単位：千台・年度)

( )は前年比



\*当資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

## 連結財務諸表(要旨)

## ⇒ 連結貸借対照表

(百万円)

科 目	前年度末 (平成25年3月31日現在)	第2四半期 連結会計期間末 (平成25年9月30日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産		
現金及び預金	409,509	329,651
受取手形及び売掛金	149,555	137,888
商品及び製品	143,046	179,258
仕掛品	33,979	28,324
原材料及び貯蔵品	25,295	33,201
その他	123,906	106,967
貸倒引当金	△6,312	△4,872
流動資産合計	878,980	810,418
固定資産		
有形固定資産	386,903	393,146
無形固定資産	12,894	12,339
投資その他の資産	174,031	182,210
固定資産合計	573,829	587,696
資産合計	1,452,809	1,398,114

科 目	前年度末 (平成25年3月31日現在)	第2四半期 連結会計期間末 (平成25年9月30日現在)
<b>(負債の部)</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	313,810	305,557
短期借入金	257,256	194,789
その他	216,180	212,542
流動負債合計	787,248	712,888
固定負債		
長期借入金	107,125	86,794
その他	207,207	202,384
固定負債合計	314,333	289,178
負債合計	1,101,581	1,002,066
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本		
資本金	657,355	165,701
資本剰余金	432,666	217
利益剰余金	△688,049	282,783
自己株式	△217	△219
株主資本合計	401,754	448,482
その他の包括利益累計額合計	△61,556	△62,505
少数株主持分	11,030	10,069
純資産合計	351,227	396,047
負債純資産合計	1,452,809	1,398,114

## ⇒ 連結損益計算書

(百万円)

科 目	前上半期	第2四半期連結累計期間
	(平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	(平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)
売上高	859,960	929,004
売上原価	700,223	721,415
売上総利益	159,736	207,589
販売費及び一般管理費	128,913	156,768
営業利益	30,822	50,820
営業外収益	8,966	16,482
営業外費用	8,140	6,330
経常利益	31,648	60,973
特別利益	11,674	637
特別損失	897	2,800
税金等調整前 四半期純利益	42,426	58,810
法人税等合計	10,655	10,456
少数株主損益調整前 四半期純利益	31,770	48,354
少数株主利益	1,709	1,623
四半期純利益	30,060	46,730

## 復配に向け、繰越損失を解消

復配に向けた環境整備を行うことを主な目的として、資本金及び資本準備金の額の減少を行い、これにより増加するその他資本剰余金の一部を繰越利益剰余金に振り替え、欠損の填補を行いました。

## ⇒ 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科 目	前上半期	第2四半期連結累計期間
	(平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	(平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	53,310	50,508
投資活動による キャッシュ・フロー	△35,934	△25,126
財務活動による キャッシュ・フロー	△29,910	△90,372
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△4,975	1,952
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△17,509	△63,037
現金及び現金同等物の 期首残高	310,993	361,167
非連結子会社との 合併に伴う 現金及び現金同等物の増加額	37	—
現金及び現金同等物の 四半期末残高	293,521	298,129

## 純資産は前年度末比448億円増加

資産及び負債は長期借入金の約定弁済などにより、前年度末に比べそれぞれ547億円、995億円減少しました。また、純資産は第2四半期累計期間の純利益467億円を計上したことなどにより448億円増加し、3,960億円となりました。

## → 会社の概要 (平成25年9月30日現在)

<b>社名</b>	三菱自動車工業株式会社	<b>発行可能株式総数</b>	1,250,000,000株
		(内訳) 普通株式	1,250,000,000株
<b>本社</b>	〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番8号 TEL: 03-3456-1111(大代表)	A種優先株式	381,600株
		B種優先株式	374,000株
		C種優先株式	500,000株
		D種優先株式	500,000株
<b>設立</b>	昭和45年4月22日	E種優先株式	500,000株
		F種優先株式	500,000株
<b>従業員数</b>	連結: 30,417名 単独: 12,887名	G種優先株式	500,000株
		<b>発行済株式総数</b>	623,274,767株
		(内訳) 普通株式	622,893,974株
<b>資本金</b>	165,701,243,103円	A種優先株式	42,200株
		G種優先株式	338,593株
		<b>株主数</b>	普通株式 367,176名
			A種優先株式 3名
			G種優先株式 4名

## → 役員 (平成25年9月30日現在)

取締役	<b>西岡 喬*</b>	取締役会長(三菱重工業株式会社相談役)	監査役	<b>木村 英生</b>	監査役(常勤)
	<b>益子 修*</b>	取締役社長		<b>福田滝太郎</b>	監査役(常勤)
	<b>市川 秀*</b>	取締役副社長		<b>三木 繁光</b>	監査役(株式会社三菱東京UFJ銀行特別顧問)
	<b>春成 敬*</b>	取締役副社長		<b>岡本 行夫</b>	監査役(株式会社岡本アソシエイツ代表取締役)
	<b>上杉 雅勇*</b>	取締役副社長		<b>野島 龍彦</b>	監査役(三菱重工業株式会社取締役常務執行役員)
	<b>相川 哲郎</b>	常務取締役			
	<b>青砥 修一</b>	常務取締役			
	<b>中尾 龍吾</b>	常務取締役			
	<b>服部 俊彦</b>	取締役			
	<b>泉澤 清次</b>	取締役			
	<b>佐々木幹夫</b>	取締役(三菱商事株式会社相談役)			
	<b>矢嶋 英敏</b>	取締役(株式会社島津製作所相談役)			
	<b>坂本 春生</b>	取締役(公益社団法人日本ファシリティ マネジメント協会会長)			

- 注) 1. \*印は当社における代表取締役を示しています。  
 2. 取締役 佐々木幹夫氏、矢嶋英敏氏および坂本春生氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。  
 3. 監査役 三木繁光氏、岡本行夫氏および野島龍彦氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

## ➤ 株式手続のご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	毎年6月
同総会議決権行使株主確定日	3月31日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
その他の基準日	上記のほか必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
公告の方法	電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは東京都内において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 (公告掲載アドレス) <a href="http://www.mitsubishi-motors.com/jp/corporate/ir/stockinfo/koukoku.html">http://www.mitsubishi-motors.com/jp/corporate/ir/stockinfo/koukoku.html</a>
1単元の株式数	普通株式は100株 優先株式は1株
証券コード	7211
株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
郵便物送付先・電話照会先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL:0120-232-711(フリーダイヤル)

※住所変更、単元未満株式買取請求、その他各種お手続き等のご請求について

1. 証券会社等の口座をご利用の場合…お取引の証券会社等にお問合せください。
2. 「特別口座」に記録されている場合…三菱UFJ信託銀行株式会社(TEL:0120-232-711)にお問合せください。

## 三菱自動車ウェブサイト投資家情報ページ

[http://www.mitsubishi-motors.com/publish/ir\\_jp/index.html](http://www.mitsubishi-motors.com/publish/ir_jp/index.html)

決算情報やプレスリリースなど、IRに関する情報をタイムリーにお届けするIRニュースメールの配信サービスを行っております。  
ぜひご活用ください。



## 三菱自動車からのお知らせ **Route**

三菱自動車工業株式会社 平成25年度(2013年度)上半期のご報告  
広報部 平成25年12月発行 〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番8号  
TEL:03-3456-1111(大代表) <http://www.mitsubishi-motors.com/jp/>



表紙のイラストの中にはクマが隠れています。探してみてくださいね。

表紙：三菱自動車 デザイン部 熊谷周作

